

ベトナム社会主義共和国視察訪問

2014年12月24日

協同組合トピックス

協同組合トピックスの技能実習生共同受入事業は1998年から開始して現在に至る間に、送り出し機関は上海崇明県、江蘇省と変遷してまいりました。中国以外では当組合はベトナムと協定を結んで既に4年が経過いたしました。残念ながらこの間にベトナムからの受入実績は作れないまま従来の中国からの受け入れを続けてまいりましたが、一昨年から徐々に求職者の応募が減り始めて、また途中帰国者が急増してしまいました。JITCOや入管の資料が示すように中国離れが技能実習生の受入において鮮明になってまいりました。当組合におきましても職業紹介許可の上で2014年2月より紹介国にベトナムを追加していつでも要請に応えられるようにしました。

9月にはハノイから当組合協定先の送り出し機関JVNET株式会社の広報課長に来組いただき、現状の送出しについて説明を聞きました。しかし、約5年前に視察訪問していましたが、当時の様子とだいぶ変わったと認識しましたので今回もう一度現在のベトナムの状況を的確に皆様に伝えることが出来るように12月1日から4日までの日程で訪問しました。

12月1日 10:30 ベトナム航空とJALの共同運航便で中部国際空港を出発。14:15 定刻通りノイバイ国際空港到着。日本とベトナム



では2時間の時差があります。飛行機に搭乗していた時間は約5時間45分。タラップを降りバスで入国審査場まで移動。空港ターミナルには2か所の出入り口があるため待ち合わせるときは注意が必要です。私も間違えてお互い別の出入り口で相手を探していました。現在、急増する航空需要に適切に対応するため、日本の円借款を活用して、2014年12月末の供用を目標にターミナル2の新設工事が進められていました。



ように前へ進めません。空港を出ると自動車ですり抜けようとして、約45分でホテルにチェックインしました。

この時期は雨季から乾季に変わる季節で曇天が多く気温は十数度までしか上がらないため寒さを感じます。街ゆく人は冬の装いですがラッシュ時の道路は相変わらずのバイクの波で、自動車は思う



12月2日は3か所の企業訪問と実習生の家庭訪問をしました。午前中



ハノイ郊外にある金型製造会社のベトナム精密加工サービス商業有限会社を訪問し、社長と会談をしました。社長のヒュイ氏は30代の方でハノイ工科大学卒業後シロキ工業とのベトナム合併会社に入社。豊川本社にも出張滞在しトヨタ車体や他の一次メーカーの技術者と仕事をした経験があるそうで

す。その後、日本や欧米の視察を行ってベトナムや東南アジアの20年30年先の将来は、EUのように人や物そしてお金が国境を意識しない動きに大きく変わると認識し、これからがチャンスと考え独立したそうです。今は千代田工業や村上開明堂と交流を深め仕事を受けています。プラスチック成形金型、プレス金型、ダイキャスト金型の製造とそれぞれ工場を別にして部品製造を行っています。以下は金型工場の様子です。



ハノイ市内を南に移動して同社のプラスチック部品製造工場を見学しました。



見学先を含め 3 か所で事業所を運営しています。



ハノイの北にある バクニン市まで高速道路で移動。昼食をとった後、来年 1 月に浜松の製造業の会社に行くという 21 歳の実習生の家庭を訪問しました。足を悪くして

近所で露店商をしている 46 才の父親と縫製工場で働く 45 才の母親が出迎えてくれました。父親の体



が良くない為、収入を増やしたいと息子が自分の考えで日本の技能実習生に応募したと母親が教えてくれました。両親として期待もし、息子が自分で決めたことを尊重していると話してくれました。家の様子を見させてもらい(台所は電子レンジと 2 ドア冷蔵庫、プロパンガスの 2 ロコンロと)充実していて驚きました。



幹線道路に出た後、しばらく行くと工業団地が田園地帯に広がり目的の電子基板製造の工場に



到着。タンロンという会社でミドルマネージャーのサ

オ・ミンさんが出迎えてくれました。ゲストルームで会社説明を聞いた後工場見学をしました。

鴻海やサムスンと多く取引しています。従業員は総勢 350 名ほどで中国人技術者が 5 名、日本人



と韓国人の営業マンが各 1 名います。ベトナムに 3 事業所を有し常に原価を抑

えた生産体制で低価格で品質レベルの高い製品作りを目指していることを聞きました。同じ敷地内で新工場の立ち上げにより受注拡大を図っていました。

12月3日はJVNET株式会社の日本語訓練センターを訪問。



ハノイ市内からノイバイ国際空港を目指して行くその途中の田園地帯にあり、辺りはバラや菊の栽培をする畑でした。



2人の日本人日本語教師と会いインタビューしました。教師は総員20名で内日本人は8名。日本人は全員が日本語教師の資格を持つ。最も勤務が長い方は4年になるリーダー的存在の日本人女性。



全寮制で日本語教育をカリキュラムの中心に位置付け、建設・溶接職種は技能



の習得訓練も行っています。また、マナー・生活習慣などをきめ細かく実地体験させるようにしています。当日は長期日本滞在経験者の副社長の奥さんが

出国を一、二ヶ月後に控えた200名あまりの生徒



を大講義室に集めて体験談を話していました。
日本語訓練センターの視察を終えて帰路につく間に、講習を完了し来週火曜日に日本に行くという女性に突然日本語で話しかけてみました。(結果はビデオに収録) 私のゆっくりとした日本語に対応でき結構話せると感じました。



最後にハノイ市内中心部にあるJVNET株式会社の新オフィスを訪問しました。実習生送り出し業務に携わる職員数は約85名でハノイの本部とホーチミン市の支社で業務を行っています。訪れたハノイの本社



オフィスは新築間もないビルの7階フロアを占有し、ここで日本との連絡や求職者の受付面談・日本からの訪問面接などの実習生業務や管理業務を行っています。

ゆっくりと夕食を取った後、空港に向かうため市内からこの3日間何度か通った道をたどりノイバイ国際空港に向かいました。

12月4日 0:15 ノイバイ国際空港出発。6:30 定刻通り中部国際空港に到着。

5年前の視察訪問時と比べ現地に進出した、あるいは起業した企業数は著しく増加し、工業団地が至る所にできたと感じました。更に、ハノイ市内や近郊の市街地はすいぶん大きなビルやマンションが建っていました。社会の発展を感じます。送り出し機関のJVNET株式会社は2倍の体制になり、以前あまり感じなかった組織的に整然と業務運営をするようになっていました。実習生の人選方法や教育の仕組みも充実して中国のやり方をしのいでいる感があります。その結果、送出し人数は500人から3倍の1,500人になっていました。一年後には2,000人を超える規模になると思われます。JVNET株式会社の職員も言っていたが、この先ベトナムの送出しは6・7年安定して続くものと思います。

(文責：協同組合トピックス 専務理事 杉浦和博)